

県立図書館60周年記念展示 コレクション紹介シリーズ

野村光一文庫

県立図書館において以下の期間展示したものです。

展示期間:平成26年5月9日(金)～8月13日(水)

会場:県立図書館本館1階 展示コーナー

お問い合わせ

神奈川県立図書館 資料部情報整備課

電話:045-263-5922 FAX:045-241-0985

目次

■野村氏の生涯と音楽

- (1) 明治・大正期の音楽事情
- (2) 音楽との出会い
- (3) 慶應義塾大学へ / 同志との出会い
- (4) ロンドン留学
- (5) 批評活動の開始
- (6) 毎日新聞 音楽評
- (7) 音楽コンクール
- (8) 県立音楽堂の設立
- (9) 日本シヨパン協会会長
- (10) 「鎌倉びと」として

■コレクション紹介

- (1) 概要
- (2) 図書
- (3) LPレコード
- (4) 音楽会プログラム
- (5) 国際コンクール関係資料
- (6) 国内コンクール関係資料

■年表

■展示資料一覧



野村光一文庫

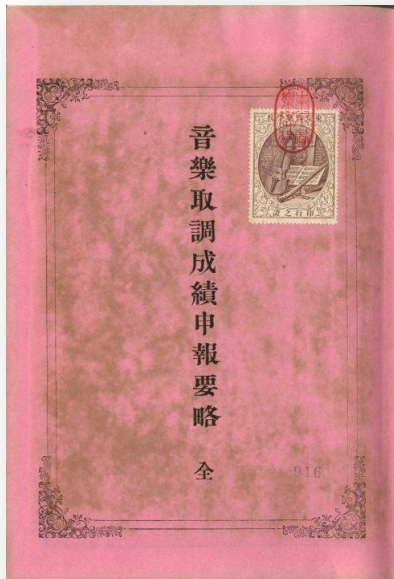
2014年、神奈川県立図書館は開館60周年を迎えます。記念展示「コレクション紹介シリーズ」の第2弾として、「野村光一文庫」をご紹介します。

当コレクションは、音楽評論家 野村光一氏（1895-1988）が永い音楽生活を通じて収集した図書、雑誌、音楽会プログラム、レコード等、多様な音楽関係資料からなります。

今回の展示では、日本洋楽史の生き字引として、また当館となりの県立音楽堂設立にも尽力された野村氏の生涯を振り返りながら、戦前の音楽会プログラムなど貴重な資料をご紹介します。

野村氏の生涯と音楽(Ⅰ)

明治・大正期の音楽事情



『音楽取調成績申報要略』
大日本図書会社 1891(NO-916)

軍楽隊に始まる明治期の西洋音楽の移入は、国策としてすすめられました。教育面では、学校における音楽教育研究のために音楽取調掛が設置(1879)され、のちに東京音楽学校となり(1886)音楽家・音楽教育者を育成します。

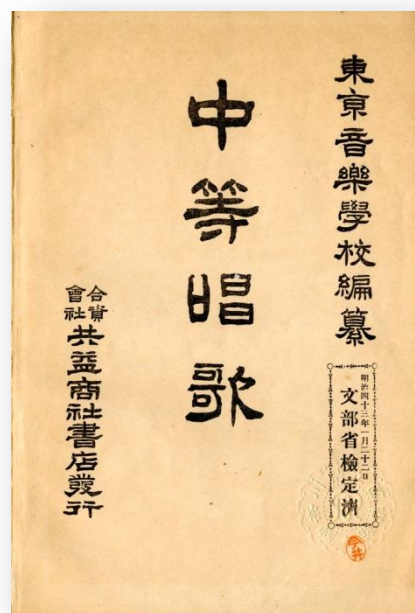
鹿鳴館や東京音楽学校奏楽堂などで催される演奏会も次第に定着していき、明治後期には幸田延、三浦環ら本格的な技術を備えた日本人演奏家も出てきました。

また、日本人による楽器の製作もはじまり、山葉寅楠によるリード・オルガン(1887)や鈴木政吉によるヴァイオリン(1887)が製作されました。帝国劇場が開場(1911)すると、歌舞伎とならんで西洋のオペラも上演されるようになります。

野村氏の生涯と音楽(2)

音楽との出会い

野村光一氏は、明治28(1895)年大阪で生まれました。当時授業に西洋音楽を取り入れていた京都府立第二中学校(現:京都府立鳥羽高等学校)に進み、芸術的・音楽的な目覚めを意識し始めます。



当時の中学校用唱歌集
『中等唱歌』共益商社書店 1912(SH375.97/31)

中学を卒業するころ出会った2つの演奏会が、野村氏に音楽への道を決心させます。一つは、東京音楽学校卒業演奏会での高安百合子氏のピアノによるショパン作品演奏、もう一つは



当時ドイツ留学から戻ったばかりの山田耕筰氏によるワーグナーのアリアとR. シュトラウスの歌曲の独唱でした。

野村氏の生涯と音楽(3)

慶応義塾大学へ

中学卒業後上京した野村氏は、慶應義塾大学文科に入学し、本科で小宮豊隆氏(ドイツ文学者、評論家)の教えを受けます。この出会いが野村氏の批評家としての一生を決定づけました。大正9(1920)年に卒業。卒業論文は「ショパン論」で、小宮氏が審査を行っています。

同志との出会い

上京した頃、野村氏は大田黒元雄氏(日本の音楽評論の草分け)、堀内敬三氏(作曲家・作詞家)に出会います。他にも同志が集まり、日本最初の音楽評論雑誌「音楽と文学」が大正5(1916)年3月を創刊します。3年ほど続きますが、大正8(1919)年8月に廃刊となりました。



当時の音楽雑誌(上から)
「音楽と文学」 楽友社 創刊1901年
「音楽世界」 十字屋楽器部 創刊1907年
「月刊楽譜」 松本楽器合資会社 創刊1912年

野村氏の生涯と音楽(4)

ロンドン留学

大正10(1921)年7月、野村氏はヨーロッパの文化を学ぶために留学します。当時ヨーロッパ最大の音楽マーケットになっていたロンドンで、グランド・ピアノを買って勉強するとともに、多くの演奏会に足を運びました。

野村光一文庫 海外音楽会プログラム(抜粋)

1921.Oct クイーンズホール・シンフォニー・コンサート

1921.Dec コルトー ショパン・リサイタル

1921.Dec クライスラー リサイタル

1921.Dec グランド・コンサート ジャック・ティボーほか

1922.May ラフマニノフ ピアノ・リサイタル

1922.May ハイフェッツ ヴァイオリン・リサイタル

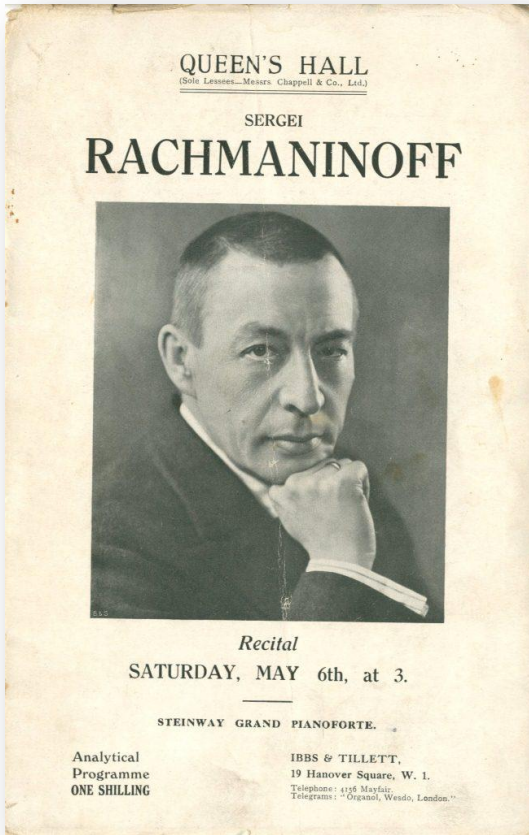
1922.Nov ミチャ・ニキシュ ピアノ・リサイタル

1922.Nov コンセル・コロヌ芸術協会ベート・ヴェン・フェスティバル

あまり熱心に演奏会を聴きすぎたせいか神経が衰弱してしまった野村氏は、大正12(1923)年3月に当初の予定より早く帰国します。

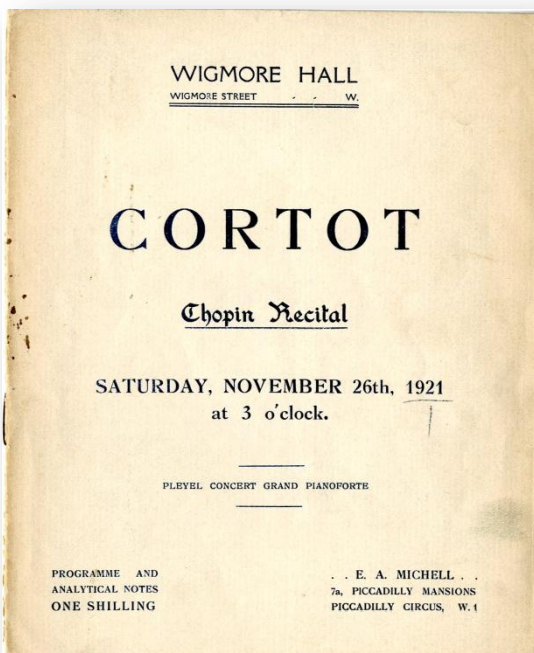
コレクションより

<プログラム>セルゲイ・ラフマニノフ クイーンズ・ホール. 1922(イキ220506)



大ピアニストとして評価の高かった作曲家ラフマニノフの演奏会。この演奏会では、自作ではなくモーツァルトやベートーヴェンのソナタを演奏している。野村氏は「重々しくて、光沢があって、力強くて、鐘が鳴るみたいに、燦銀がかかったような音で、それが鳴り響くのである。まったく理想的に男性的な音でした。」と評している。

<プログラム>アルフレッド・コルトー. クイーンズ・ホール. 1921 (イキ211008)

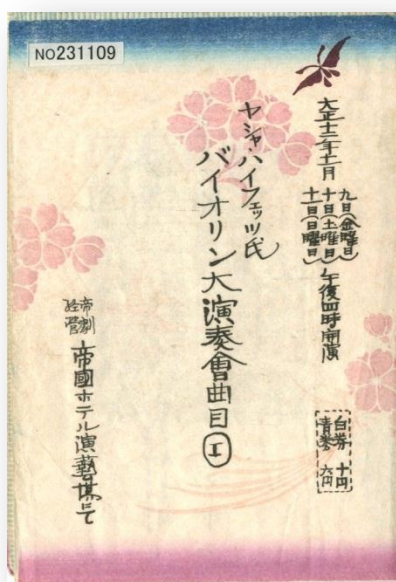


コルトーは20世紀前半を代表するフランスのピアニスト。野村氏は「いちばん印象が深くていまだに音楽の価値という点で私の音楽鑑賞に役立ったピアニスト。演奏はどれも官能的、感情的だった。演奏が終わると聴衆がステージに駆け上がり、何曲もアンコールを弾いた。」と留学時の演奏会を振り返っている。

野村氏の生涯と音楽(5)

批評活動の開始

野村氏が留学中の日本は、第一次世界大戦の影響で経済的に豊かになり、クライスラー、ハイフェッツら著名な外国人演奏家の来日も盛んになっていました。帰国した野村氏がその演奏会批評を書く機会も増えていきました。



ハイフェッツ演奏会プログラム
(大正12(1923)年11月9~11日)

野村氏の新聞での音楽批評の皮切りは、大正12(1923)年11月12日、東京朝日新聞に掲載されました。ヴァイオリン奏者ヤッシャ・ハイフェッツの初来日演奏会の評論でしたが、次の依頼があったのは2年後でした。

ハイフェッツが持つ…(略)

此の場合異常なる天分は技術の完成を殆ど何等練磨の努力と技巧上の臭味との足跡を留めずして成し遂げる、而もそれは遽に単なる技術と終らず優雅な芸術

が木乃伊の轍を履んで、哀れ果敢なくなるのに、一人此間にあつて桂冠を克ち得るは天賦の鬼才でなければ不可能なのである。

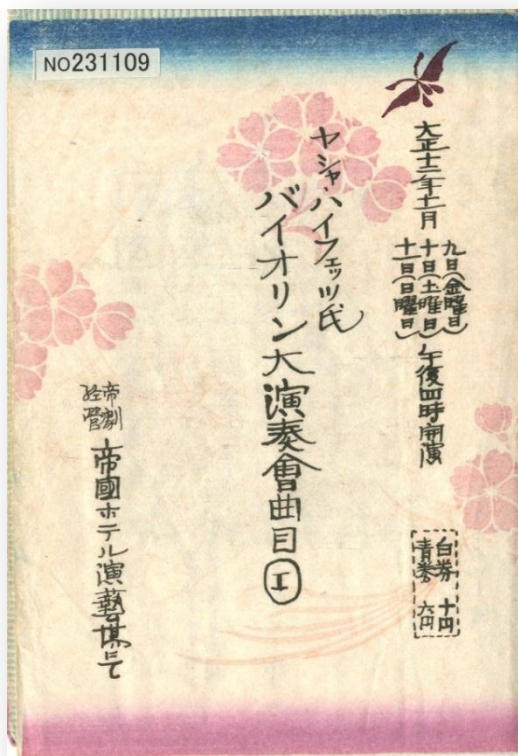
ハイフェッツが類希な良い技術家であると謂ふことは彼が技巧を超脱した技術を備へて居るが故である。此の世の数多い名提琴家達は最難な業とされて居る提琴演奏の技を征服せんが爲

ハイフェッツを聴く

野村光一

コレクションより

<プログラム>ヤツシヤ・ハイフェッツ 帝国ホテル演芸場. 1923 (231109)



ハイフェッツ初来日時演奏会。関東大震災で帝国劇場が消失したため、帝国ホテルを会場に開催した。ハイフェッツはこの演奏会翌日より震災慈善演奏会を行っている。この演奏会評が東京朝日新聞に掲載され、野村氏の新聞批評の皮切りとなった。多色刷の和紙でできたプログラム。

<プログラム>グスタフ・クローンほか。 東京音楽学校。 1924 (241129)



東京音楽学校「大正十三年秋季大演奏会」。ベートーヴェンの「第九」日本公式初演時のプログラム。野村氏は著書で「そのときの感激はすさまじいものでした。上野公園から友人とべらべらしゃべりながら歩き、新橋のたもとまで来てしまった。」と述べている。

野村氏の生涯と音楽(6)

毎日新聞 音楽評

もっと定期的に楽壇のことも取り上げて評論したいと考えていた野村氏は、つてがあった東京日日新聞(現・毎日新聞)に話を持ち込み、定期的に音楽批評を書くようになります。最初の記事は大正15(1926)年3月に掲載されました。その後、東京日日新聞専属の音楽批評家となって昭和18(1943)年まで続きます。この音楽評は、新聞での定期的な音楽評の日本における嚆矢となりました。

東京音楽学校
第三十七回卒業式 卒業演奏
(大正十五年三月二十五日)

・ピアノ独奏……千葉多可
嬰ハ短調ソナタ(作品27)……ベートーヴェン

・バトン独唱……細川碧
悲痛(作品22)……シューベルトほか

・ピアノ独奏……玉真テル
ト短調ラプソディ(作品79)……ブラームス

・ソプラノ独唱……佐藤美子
歌劇「アルセスト」より……グルック

・ピアノ及ヴァイオリン合奏……林良輝
ヘ長調ソナタ(作品24)……ベートーヴェン

・ピアノ独奏……木村悦
ハ短調競奏曲(作品37)……ベートーヴェン

ほか全12曲

(『東京芸術大学百年史 演奏会篇 第一巻』音楽之友社1990)

音楽学校卒業演奏會に列して
野村光一

今年の音楽学校卒業演奏會に久振りで出掛けた私は、この會における諸卒業生の演奏技術が過去に比して餘りに進歩してゐたのに驚いてしまった。これは全く社會全般の音楽趣味の普及及向上の結果音楽學校に入學する者の素質と豫備教育とが、昔よりは遙かに勝れてゐたことによるのであるが、それは又同時に、これ等の若き音樂者を教導した教授達の多年の経験による良き薰陶に相まつのであることはいふまでもない。(略)

(『東京日日新聞』大正15(1926)年3月30日)

野村氏の生涯と音楽(7)

音楽コンクール

野村氏は活発な批評活動の一方で、日本の若手音楽家の育成にも情熱を注ぎました。昭和7(1918)年にはじまった「音楽コンクール(現・日本音楽コンクール)」の運営にも創設時より中心となって携わりました。日本のクラシック音楽のコンクールとしては最古の歴史と権威を持つこのコンクールは、戦時中も休止することなく現在まで続いています。巖本真理、江藤俊哉、中村絃子、諏訪内晶子ら世界及び日本で活躍する演奏者の多くを輩出しています。現在、功労者の野村氏を記念してピアノ部門の最優秀者には「野村賞」が贈られています。



「第14回音楽コンクール参加規定」
…昭和20年秋に開催するはずだったが、戦後の混乱を受け、翌21年春に開催された。この年は、春と秋の2回開催されている。


野村氏の生涯と音楽(8)

県立音楽堂の設立

終戦後、焼け野原となった横浜には県民が演奏会場とできる施設はありませんでした。当時の内山知事は、県立図書館と同時に音楽ホールの建設構想をたて、関係者の意見を聞くことにしました。依頼を受けた野村氏は、「音楽懇話会」を結成し、音楽堂建設を推進します。ロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールを参考にすることなどの要望を出すと、設計者の前川国男氏はロンドンへ研究に向かいました。

○ 県立音楽堂音響特性調査票 ○

この調査票は音楽堂の音響を資料とさせていただきますから御協力をお願いします。
下記の項目の設置する所に○印をつけるか○を付けて下さい。



座席のA、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、AB、AC、AD、AE、AF、AG、AH、AI、AJ、AK、AL、AM、AN、AO、AP、AQ、AR、AS、AT、AU、AV、AW、AX、AY、AZ、BA、BB、BC、BD、BE、BF、BG、BH、BI、BJ、BK、BL、BM、BN、BO、BP、BQ、BR、BS、BT、BU、BV、BW、BX、BY、BZ、CA、CB、CC、CD、CE、CF、CG、CH、CI、CJ、CK、CL、CM、CN、CO、CP、CQ、CR、CS、CT、CU、CV、CW、CX、CY、CZ、DA、DB、DC、DD、DE、DF、DG、DH、DI、DJ、DK、DL、DM、DN、DO、DP、DQ、DR、DS、DT、DU、DV、DW、DX、DY、DZ、EA、EB、EC、ED、EE、EF、EG、EH、EI、EJ、EK、EL、EM、EN、EO、EP、EQ、ER、ES、ET、EU、EV、EW、EX、EY、EZ、FA、FB、FC、FD、FE、FF、FG、FH、FI、FJ、FK、FL、FM、FN、FO、FP、FQ、FR、FS、FT、FU、FV、FW、FX、FY、FZ、GA、GB、GC、GD、GE、GF、GG、GH、GI、GJ、GK、GL、GM、GN、GO、GP、GQ、GR、GS、GT、GU、GV、GW、GX、GY、GZ、HA、HB、HC、HD、HE、HF、HG、HH、HI、HJ、HK、HL、HM、HN、HO、HP、HQ、HR、HS、HT、HU、HV、HW、HX、HY、HZ、IA、IB、IC、ID、IE、IF、IG、IH、II、IJ、IK、IL、IM、IN、IO、IP、IQ、IR、IS、IT、IU、IV、IW、IX、IY、IZ、JA、JB、JC、JD、JE、JF、JG、JH、JI、JJ、JK、JL、JM、JN、JO、JP、JQ、JR、JS、JT、JU、JV、JW、JX、JY、JZ、KA、KB、KC、KD、KE、KF、KG、KH、KI、KJ、KK、KL、KM、KN、KO、KP、KQ、KR、KS、KT、KU、KV、KW、KX、KY、KZ、LA、LB、LC、LD、LE、LF、LG、LH、LI、LJ、LK、LL、LM、LN、LO、LP、LQ、LR、LS、LT、LU、LV、LW、LX、LY、LZ、MA、MB、MC、MD、ME、MF、MG、MH、MI、MJ、MK、ML、MM、MN、MO、MP、MQ、MR、MS、MT、MU、MV、MW、MX、MY、MZ、NA、NB、NC、ND、NE、NF、NG、NH、NI、NJ、NK、NL、NM、NO、NP、NQ、NR、NS、NT、NU、NV、NW、NX、NY、NZ、OA、OB、OC、OD、OE、OF、OG、OH、OI、OJ、OK、OL、OM、ON、OO、OP、OQ、OR、OS、OT、OU、OV、OW、OX、OY、OZ、PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PH、PI、PJ、PK、PL、PM、PN、PO、PP、PQ、PR、PS、PT、PU、PV、PW、PX、PY、PZ、QA、QB、QC、QD、QE、QF、QG、QH、QI、QJ、QK、QL、QM、QN、QO、QP、QQ、QR、QS、QT、QU、QV、QW、QX、QY、QZ、RA、RB、RC、RD、RE、RF、RG、RH、RI、RJ、RK、RL、RM、RN、RO、RP、RQ、RR、RS、RT、RU、RV、RW、RX、RY、RZ、SA、SB、SC、SD、SE、SF、SG、SH、SI、SJ、SK、SL、SM、SN、SO、SP、SQ、SR、SS、ST、SU、SV、SW、SX、SY、SZ、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TG、TH、TI、TJ、TK、TL、TM、TN、TO、TP、TQ、TR、TS、TT、TU、TV、TW、TX、TY、TZ、UA、UB、UC、UD、UE、UF、UG、UH、UI、UJ、UK、UL、UM、UN、UO、UP、UQ、UR、US、UT、UU、UV、UW、UX、UY、UZ、VA、VB、VC、VD、VE、VF、VG、VH、VI、VJ、VK、VL、VM、VN、VO、VP、VQ、VR、VS、VT、VU、VV、VW、VX、VY、VZ、WA、WB、WC、WD、WE、WF、WG、WH、WI、WJ、WK、WL、WM、WN、WO、WP、WQ、WR、WS、WT、WU、WV、WW、WX、WY、WZ、XA、XB、XC、XD、XE、XF、XG、XH、XI、XJ、XK、XL、XM、XN、XO、XP、XQ、XR、XS、XT、XU、XV、XW、XX、XY、XZ、YA、YB、YC、YD、YE、YF、YG、YH、YI、YJ、YK、YL、YM、YN、YO、YP、YQ、YR、YS、YT、YU、YV、YW、YX、YY、YZ、ZA、ZB、ZC、ZD、ZE、ZF、ZG、ZH、ZI、ZJ、ZK、ZL、ZM、ZN、ZO、ZP、ZQ、ZR、ZS、ZT、ZU、ZV、ZW、ZX、ZY、ZZ

性別	男	女			
年齢	35以下	16-25	26-35	36-45	46以上
職業	1	音楽家			
	2	批評家			
その他	3	その他音楽・音楽に関係のある職業			
	4	音楽・音楽に関係しない職業			
趣味	1	音楽音楽と関係ない	音楽は全く関係ない		
過去1年間に何回音楽会に行きましたか					
回	0	1-5回	6-10回	10回以上	

今日の演奏を聞いてみて……

音の大きさ	音が大きすぎる	適度	音が小さすぎる
音源の音の高音楽器は	1 過大	2 適度	3 不足
大きめの割合 低音楽器は	1 過大	2 適度	3 不足
音の分離の良さ	1 はっきり聞き分けられる	2 適度	3 聞き分けられない
全体的に	1 過大	2 適度	3 不足
	4 不足	5 適度	6 過大
全体的に	1 過大	2 適度	3 不足
4 不足	5 適度	6 過大	
全体的に	1 過大	2 適度	3 不足
4 不足	5 適度	6 過大	
全体的に	1 過大	2 適度	3 不足
4 不足	5 適度	6 過大	
全体的に	1 過大	2 適度	3 不足
4 不足	5 適度	6 過大	

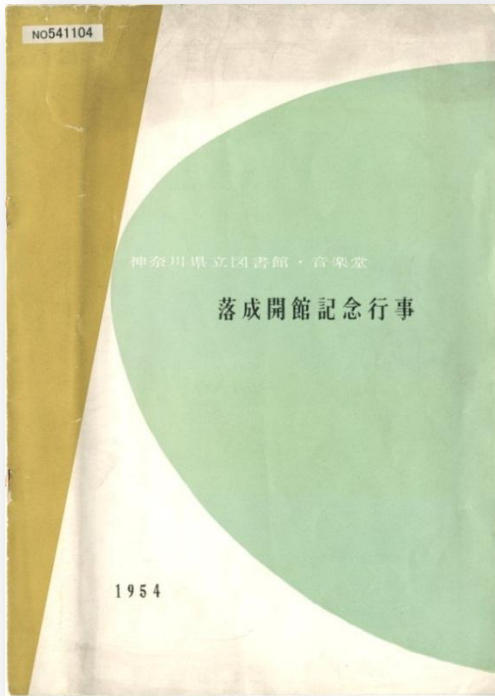
意見:

昭和29(1954)年に完成した音楽堂は当時“東洋一の響き”と絶賛されました。野村氏は「全く偶然です。こんなにうまく出来ませんよ。」と述べたそうです。以後も運営協議会委員を長年つとめ、中心となって活躍されました。

「県立音楽堂音響特性調査票」
…神奈川県立図書館・音楽堂落成開館記念行事参加者に配布された。各楽器の音量の割合、余韻等の評価を記入する欄が設けられている。

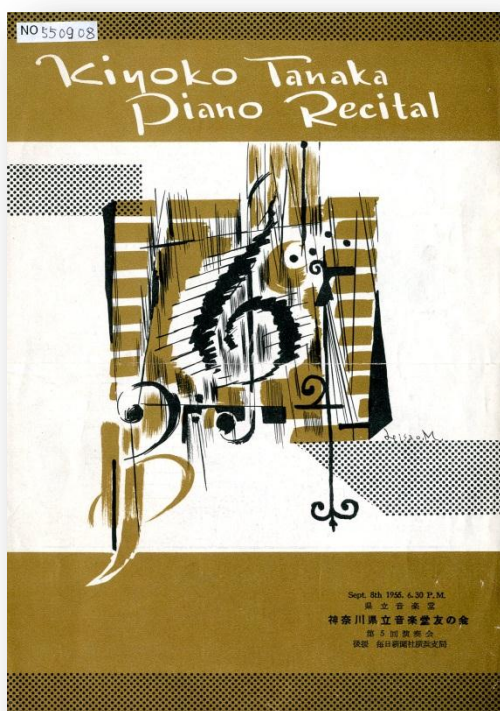
コレクションより

<プログラム>神奈川県立図書館・音楽堂落成開館記念行事。
神奈川県立音楽堂。 1954 (541104)



開館記念行事ではニクラス・エシュバッハー指揮NHK交響楽団の演奏や、神奈川県在住の音楽家による大音楽会が開かれた。「県立音楽堂音響特性調査票」がはさまれている。

<プログラム>神奈川県立音楽堂友の会 第5回演奏会。
田中希代子。 神奈川県立音楽堂。 1955 (550908)



「音楽堂友の会」は、企業に頼らず自分たちの手で質のよい音楽会を開催しようという気運から設立され、野村氏も会長をつとめた。田中希代子はショパン・コンクール日本人初の入賞者。プログラムの曲目解説を野村氏書いている。

野村氏の生涯と音楽(9)

日本ショパン協会会長

野村氏が最も愛した音楽の一つがショパンの作品です。昭和35(1960)年にショパン生誕150年を記念して設立された日本ショパン協会では、昭和38(1963)年から昭和56(1981)年まで会長を務めました。昭和45(1970)年には「大ショパン展」と題し、海外初公開となるショパンの貴重資料展を開催しています。日本ショパン協会は、ショパン協会国際連盟の一員として、国際ショパンコンクールへの協力など、現在も活発に活動しています。



日本ショパン協会会報
…例会演奏会のプログラムを兼ねている。
神谷郁代氏、伊藤恵氏らの名前がみられる。

コレクションより

<図録>大ショパン展

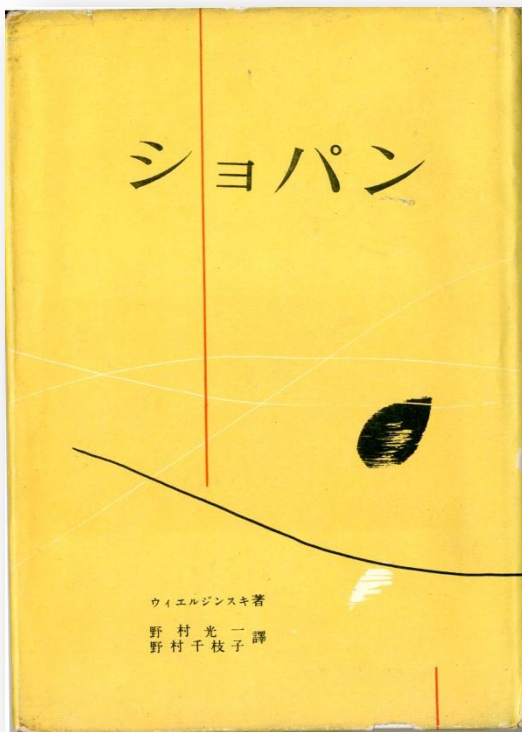
主催：毎日新聞社・日本ショパン協会。 1970 小田急百貨店



第8回ショパン国際ピアノコンクールを記念して開催された展覧会の解説目録。ショパンの出生証明書や自筆楽譜、デスマスク等、数多くの貴重な資料が展示された。日本ショパン協会会長である野村氏の謝辞がみられる。

<図書>ショパン。 ウィエルジンスキ著。

野村光一、野村千枝子訳。 創元社。 1954. NO-962 (40162018)



従来フランスで進められていたショパン研究がはじめて母国ポーランド人によりなされた点で意義を持つ資料。野村氏が夫人とともに翻訳した。千枝子(千枝)夫人にはほかに『ショパンの遺産』、『愛の人フランツ・リスト』の翻訳がある。

野村氏の生涯と音楽(10)

「鎌倉びと」として

野村氏は、大正12(1923)年、静かで穏やかな鎌倉に魅せられ、材木座に居を構えます。“音楽活動はまず自分の町から”が持論であった野村氏は、昭和21(1946)年に「鎌倉音楽クラブ」を創設し、鎌倉市の音楽文化の向上、音楽関係者の親睦につとめました。

（略）わたしがひとりひそかに鎌倉びとと考えたのは土地の者でない外から移り住んだ者で、（略）貴顕ではなく自由人で、小さいかまどを鎌倉に持ち、そのまま二十年、三十年と、土地に深く根をおろしてしまった一群の人々である。

こんど、神奈川県文化賞を受けられた音楽の野村光一氏などは、その代表的な一人と思う。野村さんの受賞を見て実は私は鎌倉びとというのを考えたらしい。（略）

鎌倉びと

大佛次郎

昭和37(1962)年に音楽普及啓発の功勞で神奈川県文化賞を受賞します。その際、作家の大佛次郎氏は野村氏を「鎌倉びと」と名付けました。

『神奈川県新聞』昭和37(1962)年10月16日

戦前戦後を通じて日本の音楽界を牽引した野村氏は、昭和63(1988)年5月22日、鎌倉市の自宅で逝去されました。92歳でした。

コレクションより

<プログラム>鎌倉市小・中・高学生音楽コンクール

鎌倉市中央公民館 第15回(1969)・第20回(1974)・第25回(1979)



野村氏の結成した「鎌倉音楽クラブ」が主催する音楽コンクール発表会プログラム。野村氏は、「日本音楽コンクール」や「日本学生音楽コンクール」に創設当初より携わり、日本の若手音楽家育成に力を注いだ。鎌倉市学生音楽コンクールは1954年より毎年開催されている。

<プログラム>尾高尚忠追悼演奏會

倉市民會館. 1951(510319)



主催：鎌倉交響樂團、鎌倉音楽クラブ、鎌倉合唱團

鎌倉交響樂團(1947-1951)は、野村氏が結成した「鎌倉音楽クラブ」の呼びかけを受け、疎開中のプロの演奏家とアマチュア愛好家により設立された。作曲家、指揮者として活躍した尾高氏は樂團の専任指揮者としても演奏を行った。尾高氏が39歳で夭逝した際、野村氏は毎日新聞にその死を悼む一文を寄稿している。